

T-5番 要約

1 被害者

匿名、東京都練馬区在住。現在高校1年生（15歳）

2 ワクチンを接種する前の健康状態

小学校、中学校（接種前）は皆勤。接種当時はバスケット部の副キャプテン。

3 ワクチン接種経過

2012年 自治体からの通知で接種を希望

8月7日（当時13歳）ガーダシル1回目接種 痛みは普通

8月10日 ひどい頭痛に

8月11日 じんましんが両腕に出現

8月16日～ 部活中に咳が止まらなくなる

9月7日 眼瞼痙攣（顔面引き攣れ）

9月15日 手足痙攣

これ以降、不随意運動（部位は移動する）、けいれん、咳、過呼吸などの「発作」が断続的に生じるようになる。母が記録をつけている。

けいれん症状が落ち着くと、脱力に悩まされるようになる。突然力が入りにくくなる。脱力は、2014年2月上旬ころにはなくなる。

現在は過眠、疲労、眼瞼痙攣に悩まされている。週2～3日登校。

4 症状

筋肉痛、頭痛、疲労感、全身のけいれん、不随意運動、息苦しさ、脱力、じんましん、耳鳴り、上下肢冷感、過眠（気力が出ない）、咳、眼瞼痙攣（目が開かなくなる）、顔面の引き攣れ、口内炎ができやすくなる、ニキビができやすくなる

5 受診医療機関

8医療機関（診療科目：耳鼻科、内科、眼科、脳神経外科、小児科、精神科）

6 診断等

脳神経外科で撮影したMRIの脳の画像のうち、不随意運動が生じる箇所に、白い影が映っているように見える、脳が萎縮しているようにも見える、と言われた。

特定の疾患の診断はされていない。

T-5番（東京都練馬区）

1 私について

私は、現在高校1年生です。

子宮頸がんワクチンを打つまでは元気そのもので、小学校は皆勤でしたし、中学校も、ワクチンの副作用で休むようになるまでは、皆勤でした。ワクチン接種時は、バスケットボール部の副キャプテンとして、部活動に励む毎日でした。

これまで、2歳半の時と、4歳半の時に熱性けいれんを経験しましたが、経過は良好で、その後大きな病気をすることはありませんでした。この経過観察として中学1年生の時にMRIを撮影していますが、特に異常はありませんでした。

また、私は、偏頭痛持ちで、子どもの割には頭痛が多い方ではありましたが、常時頭痛があるわけではなく、漢方のようなものは飲んだことはありましたが、継続して処方されていた医薬品があったわけではありません。

その他特に病気をしたこともなく、アレルギーもありませんでした。

2 ワクチンを接種した時のことについて

私がガーダシルを接種したのは、平成24年8月7日のことです。

ワクチンを接種した直接のきっかけは、自治体から郵送された接種勧奨の封書です。今でも保管してあります。

学校でも、他の自治体に住む友人は既にワクチンを接種していて、「注射が痛い。」と聞いていました。筋肉注射だから痛いというような話も聞いていました。なので、注射が上手と評判だったAクリニックで接種することにしました。

接種当日、私は、1人で病室に入りました。ワクチンの効果や副作用等に関し、医師からの説明はありませんでしたし、説明文書を渡されたこともありませんでした。医師からは「ここ消毒します。」「はい、打ちます。」と、流れ作業のように接種されました。問診も、「今日の体調は大丈夫？」と聞かれた程度でした。

注射そのものは強い痛みもなく、継続した腫れもありませんでした。これまで打ったことがある注射と変わらないと感じました。注射をした後は自転車で帰ってきました。その晩も何もありませんでした。

3 ワクチン接種後の異変と、医療機関への受診について

(1) ひどい頭痛（平成24年8月10日～）

私の父方の祖父母の家がB県にあるので、夏休みは大抵、一度はB県に帰省していました。ワクチンの接種をした平成24年も、8月10日にB県に帰省する予定でしたが、車で出発する段になって、突然ひどい頭痛に襲われました。

また、体の痙攣・不随意運動が生じるころからだと思いますが、月に少なくとも4～5回は、言い表せない大きさの頭痛に襲われることがあります。頭の上から硬い物でガンガン叩かれているような痛みです。

そのような激しい痛みがない時は、部分的な痛みが継続し、頭がもやもやしたような感じになり、横になって安静にしています。

(2) 蕁麻疹（平成24年8月11日～）

同月11日、両腕に蕁麻疹が出ました。私はこれまで蕁麻疹が出たことはなく、とてもびっくりしました。また、蕁麻疹は、腕の内側の柔らかいところではなく、外側の皮膚の柔らかくない部分に出たことが気になりました。蕁麻疹が出たのが朝食後で、3時間くらいで治まり、翌日にはすっかり落ち着いていたので、「食べ物にあたったんじゃないか。」とも思いましたが、父は、「ワクチンの影響じゃないか。」と言っていました。

(3) 咳（平成24年8月16日～）

B県から帰ってきて、まだ夏休みですから、部活が始まります。8月16日、部活中に咳が出始めました。ぜんそくみたいな咳（からぜき）でしたが、私はぜんそく持ちということもないので、最初は風邪を引いたのかな、くらいに思っていました。しかし、あまりにも咳の頻度が多いのと、咳の音が体育館に響いていたので、部活仲間からとても心配されました。

このような咳は2週間ほど続きました。8月30日には、家の近所のC耳鼻科に行き、ぜんそく用の吸引薬を出してもらいましたが、全然効きませんでした。

咳は日を迫うごとにだんだんひどくなっていきました。9月6日、部活中の咳があまりにひどいので、学校の近くのD内科に行きました。ここでは、血液を採取してアレルギー検査をしてもらいましたが、異常は見つかりませんでした。D内科では、私の咳の音を聞いた医師が、「咳ぜんそくに近いよね。」とも言っていました。

結局、病院では原因がわからず、処方される薬も効かず、楽になることはありませんでした。

咳をし過ぎると、口の中に血の味がするようになり、酸素が行き渡らず、朦朧としたりすることがあります。今ではそのような辛い咳に毎日悩まされることはありませんが、一回咳をすると、その時期に苦しんでいた咳になってしまうことがあります。

部活をやっている、走っては止まって咳こむ、ということを繰り返していました。私は副キャプテンだったので、咳が酷くても部活を休むわけにはいかず、練習や試合に何とか参加していました。同じバスケット部の仲間に、ぜんそくを患っている友人がおり、私はその友人と同じように、咳がひどくなったら休むことを余儀なくされました。

学校の授業中にも、咳が出ることもありましたが、お茶を飲んで水分補給をすることで何とか耐えていました。

(4) 目の痙攣（平成24年9月7日～）

咳が始まって3週間経過した頃（9月7日）、目にチックのような症状が起こるようになりました。最初は、バスケット部の練習が終わるころ、目がぴくぴく動いて、どうしてもならず座り込んだことがありました。目の両端が収縮して抑制できず、まぶたのけいれんも止まりませんでした。次第に目の周辺の筋肉が疲れてきて、はじめは目の周りだけに症状が出ていたのが、顔面全体が引き攣れるような感覚にもなりました。口角も上に吊られるような状態になることもありました。

平成25年12月中旬頃からは、痙攣はありませんが、目が全く開かなくなることがあります。なぜ開かないのかはわかりません。まるでジップロックを閉じたようにまぶたがピタッと閉じてしまい、誰かにくすぐられても、普通なら思わず反応してしまはずなのに、ピクリとも動かなくなってしまう。

眼の痙攣がひどくなったので、平成24年9月10日、E眼科に診察に行きました。この時、MRIを撮ることを勧められ、同日、F病院の小児科を受診し、MRIの予約をしました。

(5) 体の痙攣・不随意運動（平成24年9月15日～）

目の痙攣に襲われるようになってから1週間ほど経過したころ（9月15日）、体全体の痙攣に襲われるようになりました。痙攣は、体の一部に現れる時もあれば、体の全体に現れる時もあります。

最初は手足の痙攣でしたが、その後、全身に痙攣を起こすようになり、私の意思とは無関係に、体のどこかが常に動いている状態が続くようになりました。痙攣や不随意運動に、何かパターンがあるわけでもなく、いっどこで、自分の体がどうなるかがわからず、とても不安でした。家でも学校でも、緊張していてもしていなくても、痙攣や不随意運動が起こる時には起こる、というような状態でした。

首がガクガク動くこともありましたが、その時々で痙攣や不随意運動が起こる場所が変わりました。体が小刻みで動くこともあれば、大きく動くこともありました。

痙攣や不随意運動の症状が出た直後は、大きく動くことが多く、体のどこかが物や壁に当たって痣になることがありました。寝ている時にも、移動してしまいましたし、車いすに座っている時も、痙攣や不随意運動の影響で車いすごと移動していつてしまうようなこともありました。頭を不意にぶつけて負傷することがないよう、母にはタオルでカバーしてもらったり、症状が落ち着くまで、なでてもらったりしていました。この間も、頭痛は断続的にありましたが、それ以外の部位の痛みは感じたことはありませんでした。

既に他院でMRIの予約をしていたのですが、9月18日に急に症状が悪化したため、救急でG脳神経外科を受診し、9月24日に脳波とMRIの検査を受けました。

検査の翌日、検査結果を聞きましたが、一箇所脳波の異常がみられるとのことで、H病院への紹介状を書いてもらいました。なお、心臓・脈に異状はなく、痙攣の時には息苦しいわけでもありません。

また、この時のMRI画像を、F病院の医師に診てもらい、正常時のMRI画像と見比べてもらったところ、この時の脳波のMRI画像に「不随意運動が起こる箇所に、白い影が映っているように見える。」「脳が萎縮しているようにも見える。」とも言われました。

H病院小児科を平成24年9月26日に受診しました。ここでは、受付から1時間待たされましたが、医師は脳波のグラフを一目見て、3分くらいの間診を経て「脳波と痙攣は無関係です。」「この年代特有のもので。」と言われてしまい、挙句の果てにはI医院という精神科を紹介されました。精神科を紹介されたことは、腑に落ちませんでしたが、紹介された以上は行くべきかと思い、その足でI医院を受診しましたが、あとから、そこは摂食障害を持つ患者に強い病院ということを知りました。

医師から、「痙攣を止めれば健康そのものだよね。」と言われ、抗てんかん薬のリボトリールを処方されました。しかし、薬を飲むと、痙攣が止まるどころか、全身が魚が跳ねるような状態になってしまいました。

後日、病院に行き「この薬は合いません。」と伝えたところ、精神安定剤（レキソタン）を処方されました。しかし、この薬も合わず、服用すると痙攣・不随意運動や過呼

吸に襲われました。それ以来、服薬はしていません。病院にも2回行ったきりです。

(6) 過呼吸（平成24年9月30日～）

痙攣や不随意運動が起こるようになったのと同時期か、少し経ったくらいに、次は過呼吸に襲われるようになりました。痙攣が起こり、咳がひどくなり、過呼吸につながるが多かったです。

(7) J病院（平成24年10月17日～）

あまりに痙攣症状が続いていたため、専門的に診てもらえるところを探し、J病院を受診しました。初診の時に不随意運動が出ていたこともあり、検査入院をすることになりました。

しかし、結果としては、原因はわからないとのことで、ワクチンとの関連は否定されてしまいました。

入院中、J病院の精神科で、心理テストも受けました。結果は、至って普通の中학생で、親子関係がとても良い、とのことでした。私から「何科に行けば良いのか。」と尋ねましたが、明確な回答はなく「いつか治ります」と言われただけでした。

(8) K病院（平成24年11月14日）

経過観察のため、別の病院にかかろうと思い、K病院を受診しました。

ここでは、血液検査をしてもらいましたが、ある抗体数値が高めに出了以外に特に異状はなく、カウンセリングを受け、ビタミン系の薬を処方してもらっただけでした。

(9) 脱力（平成25年12月～）

平成25年12月ころからは、痙攣や不随意運動が起こることが減ってきましたが、今度は脱力に悩まされるようになりました。ひじから下の部分や、ひざから下の部分が全く動かなくなるのです。たとえば、シャープペンシルを持っていたのに、急にふわっと力が抜けるような感覚になり、シャープペンシルすら持てなくなります。腕が上がらず、ダラーンと重力に任せて落ちてしまう感覚です。一日のうち、いつ脱力の症状が出るかわからず、症状が続く時間の長さも一定ではありません。長い時は、3時間くらい続くこともありました。脱力が起こると、朝起きてても疲労感が残ります。脱力は、机に座っている分には問題ないのですが、自宅で脱力が出たら、寝たままになってしまい、歩くことができません。学校で突然、廊下などで脱力することもありましたが、友達が急いで車いすを持ってきてくれて、保健室に連れて行ってくれました。症状が出るようになってから、学校生活では、周りの友達にとっても助けられています。

脱力症状は、平成26年2月ころ出なくなりました。

(10) その他、気になっていること

ワクチン接種後から、口内炎が急に3つ2つ出来るようになりました。これまで、口内炎になることなんて、ほとんどなかったのに、びっくりしています。

また、これもワクチン接種後から、ニキビ体質でないのに、ニキビが出るようになりました。以前より出やすくなった、という表現の方が正しいかもしれません。頭の中にニキビが2つでき、触ると痛かったこともありました。

さらに、夏でも手足が冷たく感じるようになったり、キーンという耳鳴りを感じたりするようにもなりました。

なお、生理は、減ってはおらず、むしろ多くなる傾向にあります。特に最近、痛みが以前より気になるようになりました。

(11) 平成26年5月現在の主な症状

痙攣がなくなった頃から、過眠に悩まされるようになりました。過眠といってもただ寝過ぎて朝起きられないというのではなく、死んだように寝てしまい、何をされても反応しなくなってしまい、15時半くらいまでただ眠り続けてしまうのです。

現在は、頭痛・疲労・過眠に悩まされています。

痙攣が出ていた時期は、学校も近かったので、周囲の理解もあって、なんとか登校していましたが、痙攣がなくなり、過眠に悩まされるようになってからは、朝全く起きられなくなり、気づくと学校が終わっている時間になっていることが増え、登校することが難しくなりました。過眠がなくなれば、普通に生活することができるのに、と悔しく思います。

痙攣や不随意運動が起こった時には、筋肉痛に襲われます。

私は、現在は医療機関には通院していません。

いくつも病院に行きましたが、どこへ行っても、精神科にかかることを明示され、またほめかされることがとても嫌でした。

4 学校について

多彩な症状に悩まされるようになってからは、部活動には参加できていません。そもそも学校には週2日行けたら良い方、という状態です。部活をすると翌日には既に述べたような多彩な症状（咳、不随意運動、眼瞼痙攣、過眠、脱力、疲労など）が現れ、しばらくは調子を崩してしまいます。

運よく学校に行けた日は、授業後、17時には帰宅し、すぐに寝ることが多いです。21時30分ころまで寝て、起きて、24時には寝るという生活です。

過眠で全く起きることができない場合は、午後3時半頃まで寝てしまうため、気づいたら学校が終わってしまっています。母が、朝方、私を起こしに来てくれている声が遠くの方で聞こえる気がすることもあります。それが現実のものと思って起きなければなどと思うことはなく、覚醒することはできません。

このような生活が続くと、とても疲れますので、当然、何事に対しても、気力がわきにくくなります。学校ではレポート課題が多く、週1くらいのペースでレポートを提出する必要があり、成績もそれで決まるため、これまでは欠かさず出していましたが、症状が出てからは、SNSを活用して、友人に助けをもらいながら、何とかこなしています。

5 訴えたいこと

私は、とにかく現在私に起きている症状を治す方法を知りたいです。この症状と、ワクチンとの関係も知りたいです。その関係がわかれば、有効な治療法の発見に繋がるのではないかと期待しています。

ただ、とにかく学校へ毎日行きたいです。

普通に運動が、部活動ができる体に戻りたいです。

T-5番 母（東京都練馬区）

1 私について

私は、被接種者の母親です。

今回、娘が子宮頸がんワクチンによる被害に遭っており、症状やかかった医療機関の詳細は娘（T-5）の陳述に記載のとおりですが、私が特に認識していることについて、お話しします。

2 娘が接種した経緯について

私としては、このワクチンについて、接種義務があるということまでは思っていませんでしたが、震災直後に流れた子宮頸がんの啓発の映像が印象に残っており、また、私の母が子宮頸がん手前の状態で2回手術を経験したという家庭の事情があったので、通知が来たら受けよう、と思っていました。

そして、自治体から通知が来たので、娘に伝え、接種することにしました。

3 娘の症状について

娘は、最初の症状として咳が出たのですが、私は、咳でつらそうな娘の姿を見て、これは子宮頸がんワクチンの影響ではないか、と疑っていました。そこで、インターネットで海外での副作用事例を調べましたが、咳の症状はすぐには見つからず、検索を続けると、『呼吸困難』『咳ぜんそく』という情報に行き当たり「やっぱり子宮頸がんワクチンの影響だ。」と思い至りました。

4 医療機関の対応について

私は、どの医療機関を受診する際にも、ワクチンとの関連について、個別に聞いていました。しかし、私が持参した海外の副反応データ等を渡しても、医師はパラパラと目を通すだけで、真剣に考えてくれた人はいませんでした。そのうち、どの病院に行っても言われることは同じなんだ、ということがわかってきました。

私から「ワクチンの成分を調べて欲しい。」と伝えても、医師から「その可能性はない。」と言われてたり、「力になれない。」「ワクチンの影響ではないと思う。」などと言われてたりしていました。

また「あえて病名をつけるとすれば何ですか。」と医師に尋ねたところ、「チック症」と言われたこともありました。

私が、「仮に先生の娘さんがこういう症状に悩まされていたらどうしますか。」と聞くと、「診てもらえる医師を見つける。」という回答でした。

私の娘もそうですが、他の被害者の方も、H病院ではひどい対応をされていると聞いています。上述したとおり、私は、かかった全ての医療機関で「ワクチンとの関係についても気にしている。」「子宮頸がんワクチンを打ったあとに、娘のような症状、もしくは原因不明な症状に悩まされていると言ったお嬢さんはいませんか。」等と医師に聞いています。H病院でももちろん聞いていますが「そういう症例はない。」と一蹴されました。娘の前で、「検査しても何も出ないよ。この年代独特の精神的なものだから。」と、淡々と言われてしまい、とても悲しくなりました。また、後でわかったのですが、この医師は、

私の娘の前に、後で述べる松藤美香さんの娘さんを診察していました。それにもかかわらず、「そういう症例はない。」と門前払いの対応をされたのだとわかり、とても不信感を覚えました。

何より、ワクチン被害について、きちんと研究をしてくれる医師がいないことが、残念です。

5 被害者の会との接触について

私は、朝日新聞で子宮頸がんワクチンの被害に苦しむ松藤さんの記事を見て、朝日新聞に電話し、現在は被害者連絡会の代表をされている松藤美香さんと接触しました。

被害者の会を通じて取材を受け、私の娘と同じような症状で苦しんだ人が、他にいたことがわかりました。その方は、次の日に精神科に入院する手続をしていたようなのですが、ある晩、私の娘が取材に応じた際の映像をみて、同じ症状だ、と思ったそうです。その方とは、K病院で初めて会って話をし、私も「やっぱりワクチンの被害だったんだ。」と確信しました。それまでは、ワクチンかもしれない、という程度の認識で、自分はそう信じているけど、人には表立っては言えませんでした。同じ症状で辛い思いをしている方が居ることを知り、間違いなくワクチンが原因であると確信しました。

6 現在取り組んでいる治療法等について

娘に痙攣の症状が出ていた時から、月に2回のペースで、酵素風呂に通っています。平成25年5月に酵素風呂というものを知って、入ると体調が少し良くなったと娘が言っていたことから、継続して行っています。

また、何を素材にするかを、自分で決められるので、自宅で酵素ジュースを作ることもしています。

娘に起きている多彩な症状に対し、薬・病院だけでなく効果があると言われている様々なものについて、いろいろな情報が入ってきます。全ての決断が親である私にかかってくるので、神経を使いますが、その中でできる限りのことはしたいと思っています。娘には、好きなことをしてもらい、好きなものを食べてもらい、疲れたら休んで、という風に過ごすようにさせています。

現在は、食事には気をつけていますが、何か特別なことをしているわけではありません。普通の生活はできていませんが、最近は悪化もしていないので、このまま良くなってくれたら、とも思います。

私が仕事をしていることもあり、朝娘が具合悪そうにしているても行かなければならないこともあります。そういったときや、過眠で起きられない時には、様子を見るために、仕事の合間を見計らって一時的に帰宅することもあります。仕事しながらも、やはり心配ですし、常に気持ちが張っている状態です。

7 最後に

私は、子宮頸がんワクチンを1回でも接種した人について、追跡調査をしてもらいたいです。ワクチン接種後の被害の生じ方には個人差があると思います。また、思春期特有の感情もあり、親にも言えないこともあるはずですから、親ですら知らないうちに子が被害者になっていることもあるかもしれません。追跡調査を実施することによって、これまでは表面化しなかったいろんなことが見えてくるのではないかと思います。

全く健康だった娘が、崖を転がるように、天地がひっくり返ったような生活になってしまいました。

私は、とにかく真実を知りたいです。